

## 集中治療室 10床 (準夜5:深夜5)

集中治療室は、心筋梗塞などの循環器疾患や、心臓血管外科や外科などで大きな手術を受けられた患者さんなど、集中的な治療・看護が必要な患者様の対応を行っている病棟です。

人工呼吸器や心電図モニターなど多くの医療機器に囲まれた環境ではありますが、常に安心と安楽を心がけ早期回復を目標に看護ケアに取り組んでいます。洗髪やベッド浴などを日常ケアに取り入れ、日頃から患者様の清潔確保に努めています。



高度な専門知識と高い専門技術が要求される病棟ですので、日頃からシミュレーションや心肺蘇生法の練習に取り組んでおり、救命に必要な知識や技術が習得できる病棟です。

## HCU 8床 (準夜2:深夜2)



HCU では、救急搬送された患者さん、手術後の患者さん、ICU での集中治療を終え一般病床に移る前段階の患者さんなどの入室要請があります。HCU での治療を終えて医師の許可が出たら一般病床へ退室になりますが HCU に在室している期間は短く平均で2~3日程度です。

HCU の看護師は、どの診療科の患者さんが入室しても対応できるように、自己研鑽につとめ自身の能力向上を目指すとともに、後輩を育てるための教育計画を立て、後輩支援に病棟全体で取り組んでいます。



## 3東病棟 32床 (準夜2:深夜2)

3東病棟は、循環器疾患を中心に急性期および慢性期に至るまで、幅広く治療が行なわれています。入院患者の主な疾患として、心筋梗塞や狭心症等の虚血性心疾患、不整脈疾患、心不全があげられます。

心不全患者さんは入退院を繰り返すことも多いため、入院時より他職種や家族と協力し、生活指導や退院調整を早期に介入しています。当院には様々な職種で構成された心不全チームがあり、月に2回心不全カンファレンスを実施し、治療や看護の方向性の検討を行い心不全患者の QOL の向上に努めています。



3 西病棟 50 床 (2 交代：3 人夜勤)



3 西病棟は主に胸部、腹部の大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症などの血管系疾患に加え、心筋梗塞や弁膜症などの心疾患に対する外科的治療を必要とする患者さんが入院しています。また ICU に緊急入院した心臓血管外科患者さんが、安定した状態になり一般病棟へ移動する場合の対象先病棟になっています。

そのため大血管人工血管置換術や心臓弁置換術などの開心術、ステント内挿術に関する看護を行っています。急性期と回復期が混在しているので、手術前後のケアだけでなく早期リハビリ、退院調整に向けた介入等も必要になります。医師だけでなく担当薬剤師、MSW、担当リハビリとも連携し患者さんにとって最も良い状態で退院できるよう努めています。



5 東病棟 45 床 (2 交代：3 人夜勤)

5 東病棟は循環器疾患を中心とした病棟で、その他にも内科や手術目的の口腔外科・整形外科の小児の患者さんが入院しています。循環器疾患の中でも、特に慢性心不全の患者さんに対し慢性心不全看護認定看護師を中心に、退院に向けての生活指導を心不全手帳やパンフレットを用いて行っています。

MSW をはじめ栄養科、リハビリ科など他部門と協力し患者さんが安心して退院後の生活を送れるように、社会的サポートなど退院先の調整や地域のケアマネジャーや訪問看護師とも連携し、プライマリーを中心に病棟一丸となって退院調整に取り組んでいます。



5 西病棟 42 床 2 交代 3 交代混合 (準夜 3 : 深夜 3)

5 西病棟は脳神経内科病棟で、難病を抱えた患者さんが入院されています。長期に入院される方も多く、少しでも在宅の生活に近づけるように日々工夫しながら、看護の提供を行っています。特に患者さんや家族への関わりも大切にし、多職種間の情報共有を行いながらより良い看護を目指しています。

長期臥床の患者様にはリハビリテーション科を中心に、排痰援助も積極的に行い肺炎予防に努めています。在宅へ戻られる方への退院指導、在宅で看護をされている家族の休養目的であるレスパイト入院も行っています。



## 6 東病棟（2交代：3人夜勤）

6 東病棟は外科病棟です。消化器外科疾患が主で、絶食・点滴の保存的治療や手術、化学療法、終末期の看取りまでの様々な段階の患者さんが入院しています。

治療に合わせた看護は、プライマリー看護師が中心となり行っています。ストマケアでは、WOCと協力してセルフケアの確立を行っています。また、入院や手術によるADL低下や自宅療養が困難な患者さんには、患者・家族の話に耳を傾け退院調整に努めています。さらに、当病棟には「がん性疼痛看護認定看護師」が副看護師長として在籍しており、様々な段階の緩和ケアも、少しずつ取り入れながら日々の看護を行っています。



## 6 西病棟 50床（2交代：3人夜勤）

6 西病棟は、消化器内科と膠原病内科・呼吸器内科等一般内科、皮膚科の患者さんが入院しています。消化器内科は主に胆・肝・膵疾患の内視鏡治療される方が多く、がん患者さんの化学療法や放射線療法も行っています。一般内科では肺炎や COPD・リウマチなどの疾患の薬物治療をしています。皮膚科は帯状疱疹や蜂窩織炎の治療を行っています。内視鏡治療等が不安なくでき

るようサポートするだけでなく、早期に退院できるよう早期離床・退院支援に力を入れています。また、がん患者さんの緩和ケアや認知症患者さんへの看護も認定看護師と協力しながら行っています。一人一人の患者さんにわかりやすく丁寧な説明対応を心がけています。



## 7 東病棟 50床（2交代：3人夜勤）

7 東病棟は、脳神経外科、眼科、歯科口腔外科、放射線科、糖尿病内科の混合病棟です。脳疾患では主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などの患者がいます。手術、内科的治療や早期のリハビリテーション介入など行っています。眼科では白内障、糖尿病・高血圧網膜症などの手術、歯科口腔外科は埋伏智歯の抜歯、顎骨内の嚢胞の摘出などを行っています。放射線科は、放射線治療や化学療法、緩和治療、糖尿病内科は血糖コントロールやインスリンの自己注射への指導などを行っています。

急性期から回復期、終末期まであらゆる患者さんを対象に、個々に合わせた幅広い看護が提供できるようにスタッフ全員で協力しています。



7西病棟 50床 (2交代:3人夜勤)



7西病棟は整形外科・泌尿器科の疾患を持つ患者さんが入院しています。整形外科の主な疾患・治療は変形性の膝や股関節の手術、交通事故や転倒などによる骨折で手術を行う患者さんが主に入院されています。泌尿器科では前立腺がんや膀胱がん、尿管結石などの疾患により検査や手術目的で入院されます。入院後数日で手術になる患者さんが多く、不安が最小限となるように関わりをもち、手術や検査がスムーズに受けられるよう看護を行っています。また、高齢者の入院患者さんも多く、理学療法士や認知症ケアチーム、ケースワーカーや薬剤師など様々な職種と協力し、患者さんの入院生活への援助を実施しています。



さくら病棟 58床+ショートステイ2床 2交代 3交代混合夜勤 (看護師3人, 療養介助員1人)

さくら病棟は、重症心身障害児(者)病棟です。患者様は、肢体不自由と知的障害が重複しており、運動機能障害があります。日常生活で自立困難であるため、大部分に日常生活の援助を必要としております。近年は、患者さんの年齢層も高くなり医療的処置を必要とされる方も増えています。意思表示



ができない患者さんがほとんどであるので、観察を通して訴えられていることや必要としていることに気づくことが大切であり、看護師の観察眼も重要です。他職種と協働しながら患者さんのケアや個々の発達段階に合わせた関わり方ができるように努めています。

中央手術室 (日勤+待機制)

当手術室は、外科・心臓血管外科・脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・整形外科・眼科・形成外科・口腔外科の手術が行われています。

他院から多くの合併症を有する手術対象患者の紹介も多く、中には極めてリスクの高い症例もあります。このような状況の中で、手術室看護師には高度な専門性を有した知識・技術に加え、観察力と判断力が求められています。個々の看護師が手術室看護師としての責任と自覚を高め、自己の能力を十分に発揮できること、医師や他職種を含むチーム内で、看護師としての役割を認識した行動をとっています。患者の安全を常に念頭に置き、手術患者さんの環境を整え、個別性を考慮したサービスが提供できるよう、チーム一丸となり努力しています。



## 外来

外来は24の診療科で構成され、小児から高齢者と幅広い年齢層の診察を行っています。静岡東部地域の二次救急の対応や地域の開業医と連携をとり、切れ目のない医療を行えることを目標に外来対応をします。また、初めての受診の方、当院で継続的治療を受けている方と様々な背景の患者さんがいますが、どの患者さんにも安心して外来診療が受けられることを目標に看護を行っています。



医師や看護師だけでなく、薬剤師、栄養士など多種多様な医療従事者、また地域を支える医療従事者とともに、患者さんと御家族が地域での生活を安心して過ごせるよう継続看護を目指しています。

